

大槌の歴史

大槌をめぐるナン 第9回

お預け謹慎の身となった孫八郎に、奥瀬村までつき従って行った八將の者らがいたことは前回記しました。そして孫八郎は自刃して果てる際に、家来長助（一本では長谷川助七郎）に介錯を命じたといひます。一方三徳丸がその母とともに気仙今泉へと落ちのびた際には、主な家臣の数名が護衛に同行しました。

大槌氏失脚滅亡の後には、家臣たちのうちの多くは南部氏によって召し出されて仕えたといわれ、また村役人などを勤めているようです。

以下には、諸記録のうちに見えかくれする、大槌氏家臣の者たちの残映を追いもとめてみたいと思います。

「大槌古館（の）城主大槌孫八郎政貞」とあり、「館」とは「城」のことであると理解されます。本連載第7回で見ていただいた写真の図でも、大槌城は「大槌タテ」と記入されていました。当時、大槌城とそれを取りまく

諸支城を大槌十館と称したといひます。本城大槌城を中心として一大要塞を形づくっていたのかもしれない。

金崎館も十館の一つであったでしょう。現在の上町地内に位置し、空堀をはさんで二つの平場があり、それをめぐる帯郭など、小規模ながら「館」の形状をよく残していました。尾根を断ち切っている空堀は、金崎沢から大念寺側への（またその逆の）通路として、最近まで利用されていたものでした。

金崎館を与かる館主は金崎氏であったといひます。町内浪板の平野東良一氏所蔵の古文書は、江戸時代も後半の文化五年（一八〇八）に同家の平野吉兵衛が記述したものです。次の一文があります。

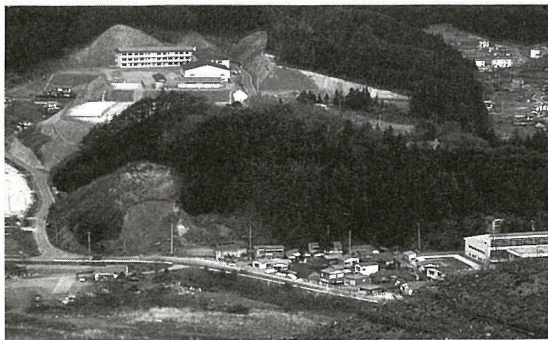
「大槌孫八郎の家臣のうちに、内金崎地内に住居する宇多大越後、宇多小越後の二人がありました。主人孫八郎が南部氏によって罪人とされ、滅亡するに及んで、その親類や家臣たちもチリヂリになり、その際に大越後は内金崎に居残りしましたが、小越後は当地（浪板か）

へ引越して来たのでした。

その大越後の子孫に宇多左助という者あり、その子の三六は十二歳の頃に大肝入（郡長クラス）を仰せ付けられました。もちろん若年ですの後見人も定められたものでした。その家系は文化五年現在での左十の家なのです」

南部藩家老職の日記を読んでいますと、江戸時代前期頃の小槌村に、代々「左助」を名乗って肝入役（村長）を勤めている家系が出てきます。

そして江戸時代後半になって、天明四年（一七八四）死没の内金崎佐十、天保六年（一八三五）死没の内金崎佐重の墓碑が、江岸寺



ハサマトの館（昭和62年ころ撮影）

境内の、町内小枕の加藤俊夫家墓所内に現存しています。天保六年の佐重は、平野吉兵衛に記述され

た文化五年現在の「左十」であるに違いありません。しかもこの墓所のうちさらに年代を遡る墓碑には「金崎」姓を刻んでいるのです。すなわち大槌氏の重臣宇多大越後は金崎姓であり、大槌氏滅亡の後には村に居残って、左助名にて何代か肝入役に任じ、そのうち内金崎姓に改めているということになるのです。

一方、平野家文書の筆者吉兵衛の先祖小越後は、当地（浪板か）へ引越して来て百姓渡世をするようになったのですが、内金崎から引越して文化五年の現時点まで何代を経たものか、今はもう定かではないと記しています。小越後は、ともに内金崎に住居していた大越後とは親兄弟か近い親戚関係でもあったのでしょうか。

平野家文書中にもう一人詳しく記述されている阿部五郎七郎という者があります。同人は通称「夏本屋」の先祖であり、「ハサマトの館」に住居していたと記されています。

今日大槌北小学校々舎背後の小山に、大槌十館の一つであろうと思われる館の跡があります。主郭や副郭の規模は大きくはないものの、それをラセン状にめぐっている帯郭、郭間の高く険しい土坡などは、近代になって構築されたものかと思まがうばかりに明瞭整然としており、背後の尾根を断ち

切る空堀は二条認められます。立派な遺構であるだけに「開発」によって一部湮滅してしまった部分のあることは、イタイイタしい思いがいたします。

この館の西側周辺は「迫田」の地名であり、この館を「ハサマトの館」に比定することができま

す。阿部五郎七郎は主人のお供となり気仙に行つたと記されていますから、三徳丸とその母を護衛していった一人ということですね。その子孫がしばらく洞（沢山）に住んだのち夏本に引き移り、文化五年時点での当主は七之助で、姓は「里館」を名乗っていると記されています。山上の大槌城に対して同氏の住んだ「ハサマトの館」は里の館であったわけですね。これすなわち夏本屋里館氏であります。同氏については後にさらに詳しく触れなければなりません。

このほか平野家文書に挙げられている大槌氏家臣の後裔たちは佐々木氏、新五兵衛殿、室ノ浜治兵衛殿、金沢ノ市右衛門殿、名字は不詳ながら洞ノ与兵衛先祖八幡ノ七之丞殿、尾角地ノ勘之丞殿、弥二助殿、へちヶ沢ノ三之丞などがあります。

文・町文化財保護審議会委員
花石公夫さん